

日本がん・リンパ浮腫理学療法学会主導の大規模多施設観察研究開始に関するプレスリリース

この度、日本がん・リンパ浮腫理学療法学会（以下、JSPTOL）より、下記の研究開始に関するプレスリリースをさせていただき運びとなりました。

本研究では、JSPTOL の外来診療部会・重点課題研究委員会 診療報酬等エビデンス構築に資する研究 WG が中心となり、30 施設以上の協力施設と共に大規模観察研究が行われます。本邦においては、医療保険における診療報酬の制約のため、外来で十分ながんリハビリテーションの提供が行えない状況が長く続いております。我々は、この状況を打開するために、質の高いエビデンスの構築および適切な実装普及を実現する第一歩として、この外来リハビリテーションニーズの調査研究を行うことといたしました。

近年、がん支持療法領域では、エビデンスに基づく支持療法を継続的に提供することが国際的な課題とされております。海外では、外来でのがんリハビリテーションは一般的に行われておりますが、入院でのがん治療を終え在宅へ移行する際に、どの患者さんにどういった早期リハビリテーションフォローをすべきかを議論するための情報は限られております。今回我々の行う大規模観察研究は国内のみならず、このような国際的な問題にも貢献する重要な研究であると考えております。

今後のこの研究成果が、世界のがん患者さんの外来リハビリテーションニーズの解決に大きく貢献することを心より祈っております。

研究課題名

外来がんリハビリテーションのアンメットメディカルニーズを明らかにするための全国調査研究
Japanese nationwide survey to DETECT Unmet medical needs of Outpatient-setting Rehabilitation for patients with cancer (J-DETECTUOR survey)

概要

- 本研究は、入院中にリハビリテーション医療を受けるがん患者さんのライフステージ別・がん種別・治療別の退院時リハビリテーションニーズを明らかにすることで、適切な外来がんリハビリテーション医療の診療体制を検討することを目的とした多施設共同観察研究です。
- 本研究では、がん治療予定あるいは治療中で入院中にリハビリテーション医療を受けた成人患者さん 1085 例を対象としており、主要評価項目は退院時のリハビリテーションニーズ評価（オリジナルアンケート）となります。
- 本研究は、将来の外来がんリハビリテーション医療の実装のための礎となる研究です。本研究で得られた情報をもとに、今後さらなる研究を重ねることで、ライフステージに応じた外来がんリハビリテーションが適切に提供される社会を目指します。
- 本研究は、38 施設で構成される研究組織であり、日本理学療法学会連合 2024 年度 診療報酬等エビデンス構築に資する研究助成を受けて行われます。

➤ 背景

本邦では、2006 年にがん対策基本法が制定され、2010 年から医療保険下で入院中のがんリハビリテーション医療を提供できるようになりました。しかしながら、外来でのがんリハビリテーション医療は依然として医療保険の適応外であり、日本の医療施設での十分な提供が難しい状況です。このような背景から、現在、厚生労働省 第 4 期がん対策推進基本計画では、今後取り組むべき課題として、科学的根拠に基づく効果的・継続的な外来がんリハビリテーションの推進が挙げられています。さらに、厚生労働省 がん研究 10 か年戦略（第 5 次）では、「がんとの共生」に資する研究が求められており、ライフステージに応じた医療体制の構築やがん患者・経験者の QOL 向上や健康増進に関する研究が求められています。このように、本邦では、ライフステージに応じた外来がんリハビリテーションの普及実装に向けて、エビデンス構築および診療体制の構築を進めることが喫緊の課題となっています。

➤ 目的

本多施設共同観察研究の目的は、入院中にリハビリテーション医療を受けるがん患者さんのライフステージ別・がん種別・治療別の退院時ニーズを明らかにし、退院時ニーズに関連する要因を抽出することで、適切な外来がんリハビリテーション医療の提供方法や診療体制を検討することです。

➤ 対象

がんに対する治療が計画されているまたは治療が行われており、入院中にリハビリテーション医療を受けた成人患者さん 1085 例を対象とします。

➤ 評価

リハビリテーション開始時（T0）および退院時（T1）に各評価を行い、退院以降の状況を診療録より取得します。本研究の主要評価項目は、退院時（T1）のリハビリテーションニーズ評価（オリジナルアンケート）です。

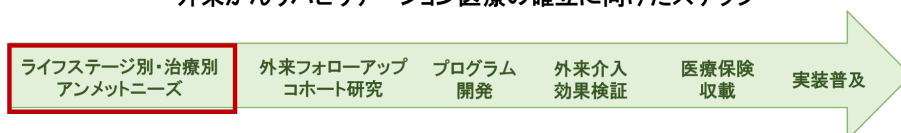


評価項目	T0 評価	T1 評価	追跡評価
患者特性（年齢・性別、体重など）	○		
腫瘍情報（がん種、ステージなど）	○		
治療情報（治療の種類、治療歴など）	○		
採血データ（血清アルブミン値など）	○	○	
生活機能（日常生活動作能力など）	○	○	
身体機能（握力、立ち座り能力など）	○	○	
アンケート（身体症状、生活の質など）	○	○	
リハビリテーションニーズ評価		○	
リハビリテーション実施情報		○	
再入院情報			○
生存情報			○

➤ 本研究の意義

本研究によって、ライフステージ別・がん種別・治療別の退院時のリハビリテーションニーズが明らかとなれば、誰にどのような目的およびプログラムで外来がんリハビリテーションを提供すべきかを検討することができます。また、本研究は、将来の適切な外来がんリハビリテーション医療の実装のための礎となる研究です（下図）。本研究で得られた情報をもとに、今後さらなる研究を重ねることで、外来がんリハビリテーションが適切に提供される社会を目指します。

外来がんリハビリテーション医療の確立に向けたステップ



➤ 研究組織体制

役割	研究機関名	研究者氏名
研究代表者	国立がん研究センター東病院	原田 剛志 (JSPTOL 理事)
共同研究者 (WG コアメンバー)	神戸大学医学部附属病院	井上 順一郎 (JSPTOL 副理事長)
	国際医療福祉大学	原 毅 (WG 長)
	名古屋大学大学院	立松 典篤 (JSPTOL 理事)
	関西医科大学	福島 卓矢 (JSPTOL 理事)
	京都大学医学部付属病院	森 拓也 (JSPTOL 理事)
研究協力者	国立がん研究センター東病院	小林 大佑 (代表機関 研究責任者)
	島根大学医学部附属病院	野口 瑛一 (協力機関 研究責任者)
	岡山大学病院	尾崎 敏文 (協力機関 研究責任者)
	岡山大学病院	池田 朋大 (協力機関 実務担当者)
	信州大学医学部附属病院	松森 圭司 (協力機関 研究責任者)
	北海道がんセンター	森瀬 脩平 (協力機関 研究責任者)
	国際医療福祉大学塩谷病院	大藤 範之 (協力機関 研究責任者)
	名古屋大学医学部附属病院	中島 裕貴 (協力機関 研究責任者)
	大阪国際がんセンター	鈴木 昌幸 (協力機関 研究責任者)
	北九州市立医療センター	音地 亮 (協力機関 研究責任者)
	総合上飯田第一病院	柳澤 卓也 (協力機関 研究責任者)
	旭川医科大学病院	村岡 法彦 (協力機関 研究責任者)
	香川大学医学部附属病院	田仲 勝一 (協力機関 研究責任者)
	医療法人鉄蕉会亀田総合病院	彦田 由子 (協力機関 研究責任者)
	浜松医療センター	中神 孝幸 (協力機関 研究責任者)
	静岡県立静岡がんセンター	米永 悠佑 (協力機関 研究責任者)
	筑波大学附属病院	姫松 花子 (協力機関 研究責任者)
	加古川中央市民病院	藤井 靖晃 (協力機関 研究責任者)
	湘南東部総合病院	衣田 翔 (協力機関 研究責任者)
	関西医科大学附属病院	小串 直也 (協力機関 研究責任者)
	菅間記念病院	一瀬 裕介 (協力機関 研究責任者)
	市立函館病院	森山 武 (協力機関 研究責任者)
	東京慈恵会医科大学附属第三病院	寺尾 友佑 (協力機関 研究責任者)
	国際医療福祉大学病院	安部 泰広 (協力機関 研究責任者)
	神戸大学医学部附属病院	藤原 克哉 (協力機関 研究責任者)
	獨協医科大学日光医療センター	大館 隼 (協力機関 研究責任者)
	天理よろづ相談所病院	平川 みな子 (協力機関 研究責任者)
	北福島医療センター	神保 良平 (協力機関 研究責任者)
	北里大学病院	南里 佑太 (協力機関 研究責任者)
	北里大学病院	三木 隆史 (協力機関 実務担当者)
	日本赤十字社長崎原爆病院	松崎 敏朗 (協力機関 研究責任者)
	栃木県立がんセンター	斉藤 明日香 (協力機関 研究責任者)
	東北文化学園大学	小野部 純 (協力機関 研究責任者)
J-DETECTUOR 研究事務局	国立がん研究センター東病院	柳沢 拓臣
	大阪公立大学大学院	後藤 淳
	長崎大学大学院	遠山 柊介

➤ 研究に係る資金

- ・ 助成機関 : 日本理学療法学会連合
- ・ 助成題目 : 2024 年度 診療報酬等エビデンス構築に資する研究
- ・ 研究代表者: 井上 順一郎 (神戸大学医学部附属病院国際がん医療・研究センター)

➤ 問い合わせ

- ・ 研究代表者: 原田 剛志
- ・ 連絡先 : 国立がん研究センター東病院 リハビリテーション科
〒 277-857 千葉県柏市柏の葉 6-5-1
Tel : 04-7133-1111 (代)
Mail : tsuyoshi6167@gmail.com

➤ 研究代表者からのメッセージ



本研究における研究代表者を拝命しております、国立がん研究センター東病院の原田剛志です。この研究では、外来がんリハビリテーションのニーズを見つけ出すことが、最大の目的となっております。本研究のJ-DETECTUORの名称はdetector: 発見器に由来しており、がん患者さんのニーズの発見器になるような研究にしたいという研究者たちの熱い思いが込められております。何が現在の課題なのかをこの研究でしっかりと見極めて、次の研究にバトンをつなぎたいと思っております。本研究の成果に、乞うご期待です。